

## アメリカセンサス局によるビジネスレジスターに関する講演会の結果概要

平成 27 年 12 月 8 日（火）、法政大学（日本統計研究所）と総務省との共同研究の一環として、アメリカセンサス局の職員 4 名が来局し、ビジネスレジスターに関する講演が行われた。その概要は以下のとおりである。

## ○アメリカセンサス局からの来局者

Mr. Brandy Yarbrough（ビジネスレジスター担当オペレーションディレクター）  
Ms. Katherine J Thompson（経済統計技術部 リサーチディレクター）  
Mr. William C. Davie Jr.（経済統計技術部 メソドロジーディレクター）  
Ms. Yukiko Ellis（経済統計技術部 数理統計官）

## ○講演概要

始めに、Thompson 氏が「経済データにおけるエディット・インピュテーションの概要」及び「経済センサスにおけるエディティング及びインピュテーションの応用：一般的な統計とその成果物」に関する講演を行った。Thompson 氏の講演と関連し、その後、Davie 氏が「インピュテーションの質・量の計測・伝達 - アメリカセンサス局における事例」に関する講演を行った。

最後に、Yarbrough 氏が経済センサス及びビジネスレジスターのトピックスとして「企業統計プログラム」、「共同雇用と従業者リース」等に関する講演を行った。

それぞれの講演の概要は以下のとおりである。

①「経済データにおけるエディット・インピュテーションの概要」及び「経済センサスにおけるエディティング及びインピュテーションの応用：一般的な統計とその成果物」では、経済データにおけるエディットルール（範囲、比率等）とインピュテーションの例（税データの活用、平均値、履歴、比率の使用）などに関する説明があった。

- ・欠損値のインピュテーションについては、同じような属性を持つ事業所の情報で置き換える「ホットデック法」の適用を検討中。
- ・インピュテーションのためのドナーの選定に当たり、事業所の分類（完全なドナー、部分的なドナー等）が行われる。
- ・エディティングとインピュテーションは、調査対象者の属性に応じたプロセス（範囲モジュール、比率モジュール等）を踏んで行われる。

②「インピュテーションの質・量の計測・伝達 - アメリカセンサス局における事例」では、統計におけるインピュテーションの定量的な測定などに関する説明があった。

- ・アメリカセンサス局が公表する成果物の透明性を担保するため、ユーザーに対して、各種の情報を公開している。
- ・行政記録により作成された出荷額データについて、経済センサスデータと比較することにより、その数値の妥当性の検証を行った結果、ほぼ全てのセクターにおいて、目だった乖離はない。

③「企業統計プログラム」、「共同雇用と従業者リース」等については、テーマごとにそれぞれ説明があった。

## 【企業統計プログラム】

- ・本プログラムは、企業の多様化、専門化といった事業所ベースでは適切な測定を導き出せない企業の特性に着目している。

- ・企業統計プログラムは1954年（S29年）が起源であり、5年周期の経済センサスプログラムの一環として実施してきた。
- ・1992年（H4年）以降、財政面と必要性の観点から中止になったものの、経済センサスは事業所ベースが多いため、企業ベースのデータを望むユーザーの要望に対応する必要があり、2012年（H24年）の経済センサスに向けて復活した経緯がある。

**【共同雇用と従業者リース】**

- ・共同雇用という新たな雇用形態を的確に把握することが必要である。
- ・共同雇用においては、クライアントの実際の従業者が雇用代行業者に属するなど、実態と異なる動きになるため、対応を検討する必要がある。

**【その他】**

- ・米国における事業所・企業への課税方法等は連邦政府レベル、州レベルでそれぞれ複雑なものとなっており、経済センサスの結果（「売上高」、「受取高」、「収益」等）のアウトプットに際し、これらの整理が必要である。